建設防災
ボランティアニュース
第62号

目次

- 年頭の挨拶
- 普通救命講習会
- 後期道路施設等点検
- 勝鬨橋ミニツアー研修会
- 北北建所内研修会

準備・心構えを怠らないように！

年頭のご挨拶

新年おめでとうございます。皆様それぞれ良いお年をお迎えになられた事と存じます。

昨年の都政は、またも舛添知事の思いがけない退陣、小池知事の誕生をきっかけとした五輪施設の見直し、豊洲盛土問題で大きく揺れた 1 年でした。2012 年の石原知事の途中退任以来、都政は 4 年間で 3 度の知事交代という異例の事態を招いております。五輪開催を控え少しでも安定した都政の回復を願うばかりです。

海外に目を転じますと英国のEU離脱、米大統領選のトランプ氏の当選など大方の予想に反した結果により、世界が、一層の不透明さを増しながらも新たな局面を迎えたと思わざるを得ません。第二次大戦後、民主主義にとともに進展したグローバリズムに対し、再びナショナリズムの台頭が過度にならないよう祈りたいと思います。

視点を我々の活動の防災関係に移しますと、幸い東京都内は目立った災害は無かったものの、国内では熊本地震、台風 10 号の東北被害などの自然災害を免れることが出来ませんでした。

都内で大きな自然災害が 2013 年の大島土砂災害以来無いということは、その宿命性を考えると潜在的リスクはむしろ高まっていると見ることができます。我々は、家族、地域の方々共々この平穏無事を感謝しつつも、自然災害のリスクに対して準備・心構えを怠らないよう、常に心していたいと思います。

どうか本年が皆様にとって、幸多き良い年でありますようお祈りいたしますとともに、引き続き協会活動への積極的な参加・協力をお願い申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

会長　杉浦　浩

普通救命講習会開催

今年度は 10 月 18 日（火）に、既に技能認定証を所持している 14 名の会員の再講習を、20 日（木）には、初めて受講する 5 名の会員の新規講習を新宿消防署で実施しました。お忙しい中皆さん熱心に受講されました。お疲れ様でした。

実技に励む再講習の皆さん

担当理事　二宮克弘

「強く・早く・絶え間なく」を学ぶ

10 月 20 日午後、精鋭5名が参加して例年通り新宿消防署において開催されました。

今回の普通救命講習は、東京防災救急協会の板倉・大田指導員二人の分かりやすい説明と熱

心な指導を受け、あっという間の3時間でした。

講義は、3つの救命処置「心肺蘇生（CPR）」、「AED（自動体外式除細動器）を用いた除細動」、「気道異物除去」についてです。この3つの救命行為は、緊急事態に遭遇した時、救急隊員や医療従事者でなくても行うことが出来る処置です。この救命処置を行って万が一の事態が生じた場合、現在の日本では法的な根拠は無いようですが、「これまでこの3つの救命行為に対しての訴訟等は無い」とのことで安心しました。

先ず、板倉指導員から講習テキストを使用しながら、応急手当の重要性を説明して頂きました。都内での救急車到着平均時間は7～8分、この時間が傷病者の生命を大きく左右するとのこと、このためバイスタンダー（その場に居合わせた人）が適切な応急手当を実施することの重要性を強調されておりました。

熱心に受講する新規講習の皆さん

続いて、大田指導員からの実技指導、人形を使用して心肺蘇生やAEDの使用方法・手順の説明を受け、二人ペアになって心肺蘇生とAED使用の連携を実践しました。手順を飛ばしたり人形に空気が入らないなど悪戦苦闘しながらも、皆さん熱心に取り組みました。人形の胸を**強く・早く・絶え間なく**圧迫することの大変さ、実技の1分間がとても長く感じ、実際の緊急時に1人での救命処置は大変難しいと実感しました。周囲の人達に大声で助けを求め、119番通報やAEDの搬送依頼など協力を求めることが必要なのだと痛感しました。

参加の皆さんは、一度はこのような講習を経験していましたが、久しぶりということで忘れてしまっていることも多々あり、今回の講習の有効性を大いに感じました。

私はこの講習後、心肺蘇生を行う際に右手の根元で圧迫したのが原因で、少しの間、右手が痛くてお箸も持てない位？でした。しかしビールジョッキは持てましたが・・・。

ほめ上手な板倉・大田指導員には、辛抱強く懇切丁寧にご指導いただきました。講習会準備連絡など二宮理事に大変お世話になり、ありがとうございました。

二建班　鈴木秀一

後期道路施設等点検

後期の「道路の施設とバリアフリー点検」が 11月2日から12月16日の期間で実施され、前期より1名多い66名の会員が参加し、今年度の点検も無事終了しました。この活動は都道の点検だけではなく、建設事務所と共同で実施することで、現職との交流を深めるとともに、参加した会員の経験と知識を現職に伝える場でもあります。ぜひ多くの会員の参加をお願いします。詳細は下表のとおりです。

事務所	実施日	参加協会員
一　建	11/25・30	2 名
二　建	12/1～12/16	8 名
三　建	11/10～12/7	7 名
四　建	11/17～28	12 名
五　建	11/7～12/6	4 名
六　建	11/25・12/5・12	3 名
西　建	11/2～14	3 名
南東建	11/30	10 名
南西建	12/6	9 名
北南建	11/8・10・11	5 名
北北建	11/30	3 名
計	11/2～12/16	66 名

担当理事　久保田元久

都道の管理は概ね良好―北南建

北南建の秋季徒歩点検は 3 回実施され、協会員は、11 月 8 日（火）の松原通り①に新川サブリーダー、10 日（木）の三鷹通りに池田リーダー、11 日（金）の松原通り②に舛原の3名が参加した。今回は 11 日午前中の点検の模様を報告する。

松原通りの東野川 2 丁目から桐朋学園前までの往復約4kmは、国分寺崖線や野川を横断する凹凸に富んだ区間であった。事務所からは増田補修課長、庶務課（検査員）の福田さん、工事第一課の影山さんと舛原の 4 名で行った。

本路線は、北側区間の歩道は1m未満の歩行者にも支障をきたすような区間が多いのに対し、南側は比較的広めの歩道が設置されているのが特長である。また、国分寺崖線区間の擁壁が外側に傾斜し、直線部がはらんだ状況であったが、傾斜状況確認のための計測を実施しており、不測の事態が発生しないよう、万全の態勢をとっている。歩道については、一部に小規模な段差や不陸がみられ、また沿道マンション前等 2 箇所で不法切り下げが設けられていた。

全体を通じ、街路樹による舗装の段差もほとんどなく、管理は概ね良好であった。また、北側の歩道狭小区間の東側に、調布3・4・17の街築工事を今年度整備する予定とのことで、完成すれば、安全・安心な動線に変貌し、良好な歩行空間が創出されることになる。

野川に跨る橋梁上の横断歩道や、市道が斜めに交差する都道歩道部の横断歩道を示す、視認性の良くない警視庁の標識（法律上設置する必要があるとのこと）など、珍しい発見もあった。

北南建との相性なのか、今回も、家を出るときは土砂降りの雨（点検中は降られず）、春季もカッパ着用の点検、共通の参加者は課長と私、どちらかが雨男？次回が楽しみでもある。

久しぶりに大国魂神社に参拝すると、七五三と酉の市が重なり、大変なにぎわい。縁起物である熊手の売り買いの手拍子を後に、伊勢丹近くの有名な老舗ラーメン店で昼食をとり次に向かった

北南建班　舛原　邦明

総勢9名が参加―南東建

11月 30 日（水）、南東建ボランティア9人（武内、織田、杉本、矢内、本間、丸岡、若尾、佐々木、柴田、敬称略。）は、本年2回目となる道路徒歩点検を南多摩東部建設事務所さんのご支援、ご協力のもと実施しました。

当日は、朝から好天に恵まれ、全員が所定時間に参集いただいた後、鹿田所長及び前田補修課長から丁寧なご挨拶をいただきました。次いで、中曽根統括課長代理、河原主任から本日の点検個所、スケジュールについてご説明をいただいた後、事務所のバスで一路現場へと向かいました。

本日の点検場所は、都道 155 号線（町田・平山・八王子線という準幹線道路）のうち、図師大橋（芝溝街道交差部）から、神奈中バス折り返し所までの約3km区間であります。この区間は、町田市の北西部にあたり、小山田緑地と多摩ニュータウン・尾根緑道との丘陵部に挟まれたすそ野にあり、谷戸部に広がった田園風景と市街地とがほどよく調和した、いまだ牧歌的な雰囲気を残した地域であります。また、源流から伸びた鶴見川が一部蛇行し、一部は改修済区間も含めて、同道路と並行するような形で流れており、河川沿いにある田んぼや畑のほか、新旧の住宅市街地集落を形成している準幹線道路であります。

当日の点検は、終点側の神奈中バス折り返し所を出発し、起点からみて右側区間（5人）と左側区間（4人）に分かれて点検を開始しました。しかし、当該道路は、未改修区間、一部改修済（片側歩道整備）区間及び改修済（車道、両側歩道整備）区間とが混在する道路であり、未改修区間では幅員が約5m前後で、そこに路線バスが走るという状況でありました。また、一部改修済区間にお

いても、片側歩道幅員は 2.5m程度で、車道は 5m～6m程度の道路でありました。したがって、二つの班に分かれて点検を始めましたが、すぐに全員で同じ区間を点検することとなり、より入念な点検を行いました。そして、最後の改修済区間(約2km)では、ようやく両側に分かれ点検を行いました。

その結果、日頃からの現役諸兄のご努力により、合計で5か所程度の指摘ということで、無事11時45分ごろ、本日の終着点(起点)の図師大橋に到着できました。直ちに記念撮影をし、事務所のバスで帰途につきました。到着後、前田補修課長、中曽根統括代理、河原さんにご挨拶し、点検を終了しました。終了後は、町田駅に近いお店に立ち寄り、本日が点検初参加の若尾さんも交え、懇親と来年に向けての英気を養い、すべての予定を無事終えました。皆様お疲れ様でした。所長はじめ事務所の皆様ありがとうございました。

南東建班　柴田賢次

ミニツアー研修会

今年の講演は「鉄道と橋」

今回で 12 回目となるミニツアー研修会が、11月 16 日(水)に、参加者 50 名で開催されました。

開催にあたり、杉浦会長は、紅林橋梁構造専門課長の著書から引用し、勝鬨橋建設を構想した岡部三郎の卒業論文の話等から、勝鬨橋を次世代に引き継いでいく、当研修会の意義について述べられました。

伊佐道路保全担当部長は、小池知事が、道路埋設物の管理実態への思いこみや博多の道路陥没等から道路管理行政に関心が高く、毎週のように知事レクがあること等を話されました。

道路整備保公社の東常務は、来館者が今年度 20 万人となる「かちどき 橋の資料館」についてイベントを行うこと等の挨拶をされました。

次に、公社公益事業課の酒井係長から、ツアーの実績とマスコミ取材が報告されました。この中で、①参加者は最近 600 人程と盛況だが、今年は、木曜日と祝日の重なりが多いことや台風による中止で、若干少なくなっていること、②参加者の男女比はほぼ同じで、50 歳以上が6割程度であること、③参加したきっかけで一番多いのは口コミで、参加者の感想は、楽しかった、面白かった、勉強になった、対応が丁寧等良好な感想が多いこと、④マスコミ取材は、テレビ東京、東京新聞、中央区のケーブル TV の3件とのことでした。

続いて10年継続支援者として、田中敏夫氏、古川顧問、杉浦会長に感謝状が贈呈されました。

続いて、紅林橋梁構造専門課長の「鉄道と橋」と題した講演が行われました。

同課長は、先に「橋を透して見た風景」を出版されました。 同書は、杉浦会長も挨拶で触れていましたが、都政新報で佐野前局長が推薦文を、都政研究で横溝公社理事長が書評を書いておられ、意見交換会でも柿堺顧問が推薦の言葉を述べられたように、読み応えのある本で、私も早速購入しました。

佐野前局長の推薦文でも、震災復興橋梁が、現代よりも耐震性の高い基準で設計されていることを書かれていますが、その他にも、勝鬨橋が可動橋となった経緯、設計者等の詳細情報や、重要文化財として同時に指定された永代橋や清州橋の指定の所以等、勝鬨橋の説明にも活かせる記述が多く、大変参考にも、勉強にもなりました。

「鉄道と橋」の講義

今回の「鉄道と橋」の講演も興味深く、全国の鉄道橋を北から南へ写真と解説で紹介され、列車の通過を待ち、タイミングを計りながら写真を撮影したことや、その橋梁の概要や構造等を細かく調べられていること等、その費やした労力・時間・熱意には、頭の下がる思いがしました。

講演のなかで、特に興味深かったのは、①戦前の鉄道鋼製トラス橋の鋼製桁は、明治中頃迄はアメリカ製、イギリス製が並存したが、それ以降はアメリカ製が主流になったこと、②戦前にコンクリートブロックやレンガで建造した橋脚やアーチが多数健在で、優れた景観を形成していること、そして③近年のデザイン優先の風潮へ懸念で、中でも中央線東京駅高架橋の橋脚は、2001 年に土木学会デザイン賞を受賞したが、鋼製とコンクリートの組合せで、耐震上不安が残ること、などでした。

研修会終了後、意見交換会に移りました。第一建設事務所の新谷所長から、勝鬨橋を含めて長寿命化対策には、原形を調べる必要があること等の挨拶に続き、柿堺顧問の乾杯で開始しました。

道路管理部から福永保全課長、橋爪課長代理等、第一建設事務所から河重補修課長、本間専門課長、道路整備保全公社から東常務や原道路部管理課長等、多数の方に参加して頂き、最後に福永保全課長の中締めのもと、盛況のまま終了することができました。

盛り上がった懇親会

南東建班　若尾啓介

（本文中の橋梁の写真 3 枚は、紅林課長のご了解を得て、講演資料より抜粋したものです。）

ミニツアーにデビューしました！

今年3月に道路保全担当部長の職を最後に退職いたしました。その職には2年と8ヶ月ほどおりましたが、その間、道路橋の管理者として少なからず勝鬨橋との関わりがありましたので、まずはその話から始めさせていただきます。

ひとつには、長寿命化の検討です。橋梁の長寿命化計画を推し進めるにあたり、重要文化財である勝鬨橋の長寿命化をどのように進めていくか、ということが課題となりました。そこで、現状の構造分析を行い、重要文化財たり得る耐震化、補強・補修のあり方について、委員会を主催し学識経験者等の意見を伺いながら、その手法等を決めていきました。

次に、勝鬨橋の再跳開の検討についてです。以前からも、ふたたび橋が開くのを見たい、という声はいろいろな方面の方々から上がってはおりましたが、東京オリンピック開催が決定したのを受け、その声が一段と、また何倍も強くなり、オリンピックまでには何としてでも跳開するんだ、などと迫ってくる方も現れました。そういった声に押され（実は、私も上がった姿を見たいと思っていましたが）、現況の把握、問題点、跳開するとなったときに要する費用試算等を委託調査いたしました。結果としては、「構造上、交通制約上、現状では（オリンピックまでは）難しい。」ということになりましたが。

その他にも、道路整備保全公社と建設防災ボランティア協会の皆様に、橋の管理者として、「勝鬨橋ミニツアー」の運営をお願いすることも行ってきました。昨年の研修会では、ミニツアー10周年のお祝いとともに、「多くの案内回数を重ね、時には過酷な中でのツアー実施に心より感謝します」、などと挨拶させていただいております。その節は、たいへんお世話になりました。

ちょっと前置きが長過ぎました。これからが本題です。11月10日に、初めてミニツアー案内に参加いたしました。これまで何回か橋脚内に入って説明してもらったことはありますし、勝鬨橋のことを十分知ったつもりでいました。しかし、これまでと勝手が違い、自分と利害関係の全くない、どこの誰なのかわからない見学者の方に直接向き合って勝鬨橋のことを紹介しなければならない、ということで、事前にガイドブックを精読し手順等を十分理解し（たつもりになっ）て、緊張しながらその日を迎えました。

3班5人全員参加のもと、午前4人、午後6人、10 人の3回実施という日程でした。役割を決める際に、「今日は最初なので、説明役の脇について先導する役をしてください。説明役は交代して行います。どんな場面でどんなことをそれぞれ言うのか、今後に備え勉強してください。」、というありがたい先輩のお言葉にひと安心。ハーネスの装着に手間取ったものの、装備を整え気が引き締まる思いになったところで、ツアーが始まりました。

午後の最初の回では、81歳のご主人と77歳の奥様のご高齢夫妻が参加されるということで、案内役の間で若干緊張感が漂いましたが、お二人とも足腰がしっかりしていて、ご主人は説明役の後にピッタリと付き、熱心に質問したりしていました。

奥様はそれを見て、私に「主人は機械ものが大好きなんです。声が大きいでしょう。現役の時は新幹線をつくる工場で、工場長をしていました。いつも大きな声を出して指示していたのだと思うの。それが抜けないのよね。うるさいの。今日はすばらしい機械の仕組みを見せてもらって感激しているはずです。」とうれしそうに話されました。

最後の回は、K先輩が顧問をされている会社の新任研修を兼ねている、というツアーで、20代の若手技術者が多数参加されました。説明役であるK先輩の懇切丁寧な跳開の仕組みの解説も相まって、技術者の皆さんから先人たちの技術力の高さに驚嘆の声が上がっていたのが、印象的でした。

ある一人の若者から、「100kg以上ある錘(下の写真)を、カウンターウェイトにどの様にして取り付けたのですか。」と聞かれ、「そうだよねぇ。人が持ち上げて取り付けるのは無理だよねぇ。」と答えにならない言葉を発してしまい、胸の内では「次までちゃんと勉強しておこう」と誓ったのでした。（どなたか教えてください。）

3人の説明役になられた先輩方の解説をつぶさに聞くことができ、大いに参考になりました。見学者にどこでどの内容を説明すれば勝鬨橋のすばらしさが伝わるか、ということをそれぞれ工夫されていて感心したのですが、自分ならこの場面でこのネタを話そうなどと考えながら、無事3回のツアー案内を終えることができました。

これからも、この勝鬨橋ミニツアーが発展・充実するよう、微力ながら案内役に参加することによって力を尽くしていきたい、と考えております。どうぞ、よろしくお願いします。

北南建班　川合康文

北北建所内研修会

街づくりノウハウのバトンをつなぐ

9月26日、入都3年以内の若手職員の能力向上と人材育成を図ることを目的として、北々建所内研修が開催されました。協会からは、北々建班の藤井、飯塚、海老沢、野崎、野村、藤江、吉原の7名が、北々建は所長はじめ管理職、若手職員を中心に26名が参加しました。

最初に藤木所長から「北々建では、入都3年以内の職員の研修として、北々塾を開催している。銀メダルを獲得したリオオリンピックの陸上 400mリレーのバトンパスの技術のように、先輩から中堅・若手へと、街づくりのノウハウのバトンを引き継いでほしい。」とご挨拶をいただきました。

協会からは藤井リーダーの挨拶、出席者の自己紹介の後、協会の活動報告（野村会員）を行いましたが、最後に「島しょ行政への誘い」として「数年間の島しょ経験も貴重」と PR がありました。

活発な意見交換会の状況

講義・発表では、協会から①「発想の転換による事業目標達成事例」（飯塚会員）、②「どう働くか・・43年間を振り返って」（野崎会員）③「私は何故局長になれなかったのかーある先輩のぶっちゃけ話」（藤江会員）のテーマで、それぞれ25分程度の発表と意見交換を行いました。

まず①では、戸吹トンネル（新滝山街道）を開通させるために、地権者との交渉で様々な手法を駆使して、最終的に地権者の合意を得られたこと。予算が限られた中で、様々な工夫により陵南大橋（高尾街道）の開通記念式典を無事開催したことなど、発想を転換することで目標が達成できた経験談が紹介されました。最後に、「長い公務員生活では困難な事例に直面するだろうが、前向きに取り組めば好転する」とのコメントがありました。

次に②では、43年間の都庁生活を振り返って、組織にとって人が要であり、目標を達成するためにどのように組織は作られ、メンバーはどのように集められるのか。面倒見のよい上司、反面教師になるような上司と仕事をして感じたこと。異動は自分の希望通りにいかないこともあるが、面白くない仕事でも将来の糧になったことなどが紹介され、最後に、「心身ともに健康で、能力・経験・人柄を磨いて充実した職業人に」とのコメントがありました。

また③では、自分の都庁での経歴を紹介しながら、上司の望む部下、上司が困る部下の事例紹介。都庁人生で、良かったこと、悔やまれることの経験談。局長とはどのような能力の人がなるのかの紹介があり、最後に、「先を見据えて考え行動する」「仕事に真摯に取り組む」「コミュニケーションを大切に」等のアドバイスがありました。テーマは刺激的でしたが、含蓄に富むお話でした。

意見交換では、「どのような上司が良い上司か」「仕事に行き詰って悩んだときどうするか」等についての質疑がありました。

聴講する北北建職員

入都3年目までの若い職員のみなさんにとって、建設局 OB からのいろいろな経験を踏まえた様々な話は、今後、必ず参考になると思われます。

なお今回も意見交換会の前に、現在工事中の3か所の現場（和田橋長寿命化工事、残堀川調節池、国分寺3・2・8JR中央線オーバーパス部）を案内していただきました。3現場とも若手職員の

みなさんがわかりやすい説明をしてくれて、着実に事業が進んでいることを実感しました。

JR 中央線オーバーパス部の現場にて

今回の「意見交換会」の開催と現場視察の機会を提供していただいた、藤木所長を始め北々建の管理職、関係職員の方々、そして参加された若手職員の皆様に感謝申し上げます。

北々建班　吉原　一彦

現場見学会は延期に

今年度は、中央卸売市場が建設を進めている豊洲新市場工事現場の見学を、9月 30 日に予定して全会員にお知らせしたところ、52 名の参加希望がありました。しかしながら、11月7日に予定していた新市場の開業は延期となりました。

こうした状況を踏まえ、現場見学会の実施について理事会で検討した結果、この時期の視察は無用な誤解を生む恐れがあること及び、苦労されている現役職員に余分な負担をかけたくないことから、今回は「延期」とさせていただきました。

参加を希望された皆様方には、多大なご心配とご迷惑をお掛けしたことをお詫び申しあげます。また今後の対応については改めてお知らせいたしますのでご了承ください。

担当理事　藤田進

新規会員の紹介

今回の加入もお一方だけでした。

米田秀男さん　（北南建班）

よろしくお願いいたします。

訃　報

昨年12月9日、勝鬨橋ミニツアーにも開始時から御参加いただいた、六建班の荒川晃さん（79歳）が御逝去されました。謹んで御冥福をお祈りいたします。

訂正とお詫び

前号の記事中、ミニツアーへのお便りで御紹介した小学生のお名前が間違っていました。正しくは「松尾光起」君です。お詫びするとともに訂正させていただきます。

協会からのお知らせ

① 「建設局長による感謝の会」が1月27日（金）に開催されます。また初動対応訓練は2月8日（水）に実施されます。

② 各班の活動報告をお待ちしてます。下記編集担当理事又は林まで連絡願います。
林アドレス(mikio.hayashi@okumuragumi.jp)

③ 協会のH. P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板)には、最新の情報、ニュースのバックナンバー、建設局報などが載っています。
アドレス(http://tokyo-adv.info/)

＊＊＊編集後記＊＊＊

毎回この欄に到達するたびに、ホッとするとともに、原稿を書いていただいた方々のおかげだと実感しています。今年もよろしくお願いいたします。

発行人　杉浦　浩
発　行　東京都建設防災ボランティア協会
新宿区西新宿 2-7-1
小田急第一生命ビル 20F
（公財）東京都道路整備保全公社内
編　集　高橋　紀男、林　幹生
堀内　康彦、丸岡　敏夫